

第131回交流フロア運営会議（議事概要）

1 日時・場所

日時：2023年3月1日（水） 18：30～19：55

場所：伊丹市立図書館ことば蔵 1階交流フロア

2 参加者数 14名

3 会議内容

<新規提案>

（1）お仕事紹介シリーズ 薬剤師のお仕事

【概要】

- ・知っているようで知らない仕事について話せる場をつくりたい。去年10月に郵便局の仕事を紹介し、今回は第2弾として現役の薬剤師が仕事の内容や薬との上手な付き合い方をお話する。
- ・薬剤師になるための流れやお金事情、普段の仕事の紹介の他、ジェネリック医薬品など薬に焦点を当てた話もする予定。

【意見】

- ・薬について紹介する際に、家族に薬剤耐性があり市販の薬が効きにくい。そういった症状についても話して欲しい。
→同じものを飲み続けていると、効きが悪くなることもある。知らない人が多そうなので話すことに加えるか検討する。
- ・対象は設定するのか。数ある進路の中で薬剤師を考えている中高生やその親世代は、現役の薬剤師の話を聞きたいと思う。
→薬に関する話は少々難しいため、高校生以上を対象としたい。
- ・薬剤師を目指している中学生もいるので、できれば中学生も参加させてほしい。
- ・資料はあるのか。内容が難しそうなので、ただスライドを映して話すだけだと説明が頭にはいって来ないと思う。
→スライドを印刷したものを資料として配る予定。
- ・処方箋を受け取って薬を渡すまでに何をしているのか、普段は見えない部分を紹介してもらえると面白いと思う。

(2) 気になる本で話そう

【概要】

- ・東日本大震災で地震と津波に遭遇した3人の女性が主人公の、垣谷美雨さんの小説『私たちの避難所』を題材とし、本の内容を中心に参加者同士でフリートークを行い、色々な考え方や意見に触れてお互いが尊重し合い、自分らしく生きることを考える機会としたい。
- ・本の内容は、避難所生活をきっかけとして、もともとあったが問題視されてこなかった男尊女卑がはびこる社会を取り上げている。
- ・南海トラフ地震の発生確率が高まる状況下、日常生活に潜む「生きづらさ」を通して、減災・防災について語り合い、考える場にしたい。

【意見】

- ・前は読まずに参加したが、読んで参加した方がいいか。
→できれば読んでほしいが、このイベントで話したうえで読むのもいいと思う。個人的には読みやすい小説だった。
- ・女性の立場として避難所は女性をどう扱うべきなのか、参考にお聞きしたい。
→政府が出している国の防災計画には男女共同参画の文字はある。だが実際は、女性に対する子育ての配慮が足りていなかったり、男性に対して「男はしっかりすべき」という押し付けがあったりする。ただ、これらは避難所で生まれたものではなく、これまで問題視されていなかったものがあらわになったもの。今回のイベントで、日常生活に潜む「生きづらさ」を見つめなおし、避難所でどう対処すべきか考えたい。

(3) ことば蔵こども作戦会議

【概要】

- ・2017～2019、2022年1～3月に実施していた活動を新たに開始したい。
- ・子どもたちが「やってみたい！」ことを、みんなでアイデアを出し合い、企画、準備する取り組み。言うなれば、「子ども版交流フロア運営会議」。
- ・対象は小学生とその保護者5組程度。月1回の交流フロアでの会議と、オンラインを併用し、半年後のイベント実施を目指す。

【意見】

- ・大人のサポーターも募集するのか
→過去募集した時もあったが、子どもとの調整だけでなく、そちらとの調整をする必要が出てくるため、今回は募集せず、参加する小学生の保護者をサポーターとしたい。
- ・企画者以外にもスタッフはいるのか。
→過去のイベントを一緒に行ったメンバーではないが、お願いする人はいる。
- ・半年間、毎月開催するのは大変ではないか
→過去の経験則として、5-6ヶ月が最低でも必要な長さとなる。長くはなるが、習い事のイメージで参加してもらいたい。あくまで希望だが、毎月第3日曜日と開催日を固定させてもらえば、参加しやすくなると思う。

・意見がまとまらないこともあるのではないかと

→もちろん最初はバラバラだが、回数を重ねると不思議とまとまってくる。もちろん、ことば蔵ではできない提案は、職員と相談し別の案にしてみようこともある

・半年と期間が長い、途中で飽きてしまう子はいないのか。

→自分がやりたいことを実現するイベントなので、過去の参加者はみんなやる気を保っていた。

(4) 自分に合った腰痛との付き合い方を知ろう

【概要】

・悩んでいる人が多い腰痛だが、患部に直接アプローチした方がいいケースや、腰以外のツボを刺激した方がいいケースなど治療法に違いがある。

・自分の腰痛がどのタイプなのか把握し、タイプにあったセルフケア方法をお伝えすることで、健康保持増進と腰痛対策となるイベントを開催したい。

・座ったまま刺激できる手足のツボや、自宅でできるお灸のすえ方などを紹介する予定。

【意見・感想】

・腰痛に悩んでいるのは色々な世代がいると思う。ある程度年代を絞った方が説明しやすいのではないかと。

→検討する。

・定員は几人か

→講座だけにするか、個別に対応する時間をとるかで変わる。症状によりそれぞれ対処（ツボの場所や医者にかかった方がいいケースなど）が違う。一般的な腰痛の対処法を、まずは講座で伝えられたらと思う。

・お灸の体験も楽しそう。

→煙が出るため、交流フロアでは難しい。

・本当に痛い人は病院に行くと思うので、「腰痛予防」に力をいれてはどうか。

・病院に行くべきか迷っている人にとって、このイベントで行う腰痛のタイプ診断は、とてもいい判断材料になると思う。

・マッサージをしてくれるイベントと誤解されないように、あくまでセルフチェックとセルフケアのイベントであることを強調した方がいいのではないかと。

・施術は無しで、参加者が自分でツボを押す形式での開催として欲しい。チラシかイベント開始時に、直接の施術は行わないこと伝えた方がいいと思う。

(5) ことば蔵で^{ぶり}風流を

【概要】

・尺八と箏の邦楽演奏、講演と朗読を楽しむイベントを開催したい

・次回で21回目となる

<イベント実施報告>

(1) 気になる本で話そう「ヨチヨチ父」

参加者は10人。絵本作家、イラストレーターであるヨシタケシンスケが子育てであたふたしたことや心境をまとめたイラストエッセイを中心にお話した。参加者の年齢層は高かったが、出産を予定されている夫婦の参加もあり、経験を伝える場となった。

(2) 漫画を語ろう！

参加者は6人。テーマは「あまい漫画」。お菓子作りがテーマの漫画や、主人公の考え方があまい漫画、など様々な作品が紹介された。また、4月から6月のテーマを考えた。

今回は3月22日(水)18時30分～ テーマ「卒業漫画」で開催

(3) 「2分で心をうるおす名曲セラピー」著者が語るおはなし会

参加者3人で、今回で3回目の開催となるが、祝日に開催したためか人数が一番少なかった。少人数であったので、参加者とじっくりお話することが出来た。「とても楽しく聞かせてもらった」「もっと長く時間をとってほしい」等の好意的な感想をたくさんいただけて良かった。

(4) ことば蔵の絵本で楽しむわらべうたあそび

対象は未就学児の親子で参加者17人だった。ことば蔵で借りられる絵本を机の上に並べ、手に取られた本に載っているわらべうたあそびを行った。感想で、「アットホームな雰囲気楽しめた」「家でもやってみようと思う」といだけて、開催して良かったと思えた。

(5) ことば蔵でエコ「もったいない月間」

・エコ川柳は過去最多の100件の応募があった。ことば蔵、スリーR・センター、柿衛文庫の職員が選んだ作品が2/26(日)のイベントで公表された。

・リユース品の抽選会には48人が参加。抽選結果が発表されるたび、盛り上がりを見せた。

・廃材で作るお雛様のリース作りには14人、リサイクルのお話や紙芝居を楽しむクリーンランド出前講座は17人の参加、おもちゃ病院には14人の申し込みがあった。

4 次回の運営会議 **2023年4月5日(水)18:30～** ことば蔵1階 交流フロア